

平成 29 年度 大田区区民協働推進会議（第 3 回）

日時：平成 29 年 9 月 14 日（木）

場所：本庁舎 2 階 201 会議室

【議題】

- 1 地域力応援基金助成事業（ステップアップ助成）公開プレゼンテーションについて【10/21（土）】
- 2 地域力応援基金助成事業（新規）の経過観察について
- 3 大田区区民協働推進会議内容の取扱いについて
- 4 平成 29 年度調査・研究テーマについて
 - （1）「おやじの会」の実態調査の状況について
 - （2）地域力応援基金助成事業の見直しについて
- 5 その他

【出席者】

委員：中島・牛山・杉崎・平澤・茂野・寺田・志村・櫻井・柳谷・長沼

事務局：地域力推進部長、区民協働担当課長・地域力連携協働支援員・区民協働担当 2 名

【会議録】

	《開会》
事務局	委員 11 名のうち 10 名の方にご出席していただいています。過半数に達していますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第 6 条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。
	《会長あいさつ》
会長	部長から挨拶をお願いします。
部長	《部長あいさつ》
会長	杉崎委員は、本日が今期初めての出席となりますので、自己紹介をお願いします。
杉崎委員	《杉崎委員自己紹介》
会長	会議を始めさせていただきます。 まず、「地域力応援基金助成事業（ステップアップ助成）公開プレゼンテーション」について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	地域力応援基金助成事業（ステップアップ助成）は、第一次（書類）審査の結果、11 団体が第二次（公開プレゼンテーション）審査に進むこととなりました。 第二次審査は、10 月 21 日土曜日の午前 10 時から区役所 2 階会議室で開催します。午前 6 団体、午後 5 団体がプレゼンテーションを行い、午後 3 時に終了予定です。
会長	ただいまの説明内容につきまして、質問、ご意見等がございましたら発言願います。
委員	《審査内容に関する発言あり》
会長	それでは、公開プレゼンテーションにつきましては、そのように進めてください。 次に「地域力応援基金助成事業の経過観察」について、事務局より説明をお願いします。

事務局	<p>経過観察は、各助成の要綱の規定に基づき、区民協働推進委員及び事務局が助成1年目の事業に対し助成事業の経過を確認するもので、今年度は12団体が対象です。経過観察を行い、事業の現場を視察することで事業をより深く理解すること、さらに第三者の視点からアドバイスすることで事業の更なる発展につなげることが目的です。経過観察の担当者は、第2回会議で決定された継続審査の審査員を中心に調整を考えておりますが、希望があれば、審査担当以外の委員の方もぜひお願いいたします。なお、委員ご自身が在籍している団体の経過観察はできませんので、ご了承願います。また昨年からは、観察内容の記録シートを改訂しました。このシートについても、ご意見等いただければと思います。</p>
会長	<p>ただいまの説明内容につきまして、質問、ご意見等がございましたら発言願います。</p> <p>《発言なし》</p>
会長	<p>それでは、経過観察につきましては、そのように進めてください。</p> <p>次に、「大田区区民協働推進会議内容の取扱い」について、事務局より説明をお願いします。</p>
課長	<p>本会議内容の取扱いについては、「大田区区民協働推進会議設置要綱」第7条で「会議の公開」で「区民協働推進会議は、会議及び議事録を公開する」と定めています。ただし、第2項に「会議及び議事録の全部又は一部を非公開としたものについては、何人も秘密性の継続する限り他に漏らしてはならない」とあるとおり、守秘義務が謳われており、具体的には各助成の審査内容が該当します。</p> <p>来月公開プレゼンテーション審査を行います。審査期間が長く、また地域で活躍されている皆様ですので、審査期間中多くの団体とお会いされると思います。</p> <p>今一度ご確認ということで周知させていただきました。</p>
会長	<p>皆様におかれましては、言うまでもなくご存知だと思いますが、再度、確認の意味でご注意いただくとともに、引き続きそのように取り扱いますようお願いいたします。</p>
委員	<p>《委員全員で確認》</p>
会長	<p>次に、本推進会議が取り組む調査・研究テーマについて、まず「おやじの会の実態調査」について、事務局より説明をお願いします。</p>
支援員	<p>「おやじの会の実態調査」の調査対象は、区立の小中学校にあるおやじの会です。基本的には、学校の男性保護者が作る自主的なボランティア組織を指します。</p> <p>区内各所で活動している情報は入ってきますが、おやじの会の実態を調査したものが過去にありません。大田区の地域力全体を考えた時に、子育て世代、現役世代のコミュニティとして非常に力を発揮しているのがおやじの会です。</p> <p>後ほどご説明する「おおた地域力発見ガイド」にも記載していますが、役所に担当窓口がなく、教育委員会でも実態を把握していないことから、区民協働で調査を行います。</p> <p>調査にあたっては、役所内部での調整を考慮し、10月に調査依頼し11月に調査票を回収予定としたいと考えています。当初、9月に調査依頼し10月に回収予定でしたが、1ヶ月遅れのスケジュールとなることをご了解いただきたいと思います。</p>
会長	<p>代表的なもので構いませんので、おやじの会の活動例を教えてください。</p>
支援員	<p>平成25年に区立小学校PTA連絡協議会が学校のPTA全体の实態調査をした際、おやじの会の調査も行いました。調査当時、59小学校中42校、71%の小学校におやじの会が存在していることがわかりました。</p>

	<p>活動内容は、おやじの会主催の子ども向け事業、たとえば週末や夏休みでの夏祭りや肝試しといったイベント等で、防災の視点での宿泊体験をしている学校もありました。その他に、学校への協力として運動会でのパトロール、地域への協力として町会や青少対、商店街のイベント等へのマンパワーでの協力を行っているようです。</p>
会長	<p>スクールサポートは、普段から PTA と連携し様々な行事をしています。おやじの会もスクールサポートとの連携を行い、効果を上げられるとよいと思います。</p>
寺田委員	<p>おやじの会は、学校が必ず把握しているとも限らないのでしょうか。</p>
支援員	<p>基本的に学校と独立して活動していることはありませんので、活動をしていけばそれはないと考えます。非常に少人数であるなどの場合は実態が把握しづらい場合があるかもしれませんが、名乗っていれば学校も保護者の活動として認識していると思います。</p>
会長	<p>各学校のおやじの会の規模についても、調査に入れていただきたいです。</p>
支援員	<p>会員数等、規模についても調査票に盛り込む予定です。</p>
志村委員	<p>おやじの会と PTA との関係性について、実感としてどのようなものがありますか？</p>
支援員	<p>PTA については、現在でも女性が中心で、PTA 会長は対外的な仕事もあることから男性が務めるというケースが、大田区では多く見受けられます。PTA は組織の仕事など義務的な面がある一方、おやじの会は比較的自由なボランティア組織として成り立っており、できる人ができる時にできることをしている印象です。制約の多い PTA を補完しているのがおやじの会である、というのが現在の仮説です。</p>
杉崎委員	<p>私自身、平成 11 年頃に PTA 会長をしていた当時から、おやじの会は存在していたと思います。PTA の補完する組織として機能しており、おやじの会をきっかけとした飲食での交流もあり、男性保護者のコミュニケーションの場となっていたようです。</p>
会長	<p>敬老の日を迎え、女性の方が長生きする傾向があると感じます。仕事を引退した後の男性を、おやじの会など地域コミュニティにつなげることが大事ではないでしょうか。</p>
平澤委員	<p>最近ではインターネットで検索して情報収集ができるので、接点が作れるのではないのでしょうか。PTA や町会にとっては、おやじの会は大変な勢力となると思います。</p>
柳谷委員	<p>私の娘たちが通っていた小学校では、平成 10 年以前からおやじの会は発足していたと思います。おやじの会の方が、その後町会、自治会で活躍されているケースがあるようです。また民生委員やスポーツ推進委員でも、おやじの会から後継者を探ることがあると聞きます。</p>
会長	<p>町会では、祭礼や運動会といったイベントでは人が集まりますが、普段の仕事となるとなかなか集まらないのが課題です。 予定のスケジュールで調査を進めてください。 次に、「地域力応援基金助成事業の見直し」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本テーマは、今期 2 年を通し、ご議論いただくテーマです。本日は、助成事業の全体についてご確認いただき、検証の意味を含めご議論いただければと思っております。事務局が検証のたたき台として、現在の地域力応援基金助成事業の概要や実施状況をまとめた資料を作成しました。本日からの議論でいただいた意見をさらに肉付けしながら</p>

	<p>検証としてまとめ、今後の方向性につなげていきたいと考えております。</p>
会長	<p>委員の皆様からご意見をお願いいたします。</p>
茂野委員	<p>数年前、スタートアップ助成の面接審査を受けた団体が、面接審査の際に、審査員から問題のある指導助言があったと、当該団体から聞いています。</p> <p>《事例を紹介》</p> <p>経過観察もそうですが、面接審査は非公開であり、審査員の視点で助言をするだけでよいのか疑問に思います。その中でのやりとりについて議論する場がなく、内容そのものに疑問があった場合の対応について考慮すべきだと思います。</p>
副会長	<p>当時の面接審査の中で、そのようなやりとりがあり、団体と審査員が意見交換のような形になってしまっていたと記憶しています。</p> <p>しかし、そのやりとりは審査の結果に影響していません。</p>
支援員	<p>審査をする上での審査員の方の振る舞いや、審査員の価値観を押しつけるような発言をするようなことはしないなど、ルールを作るのがいいかもしれません。</p> <p>審査は複数人で行い、トータルで結果を出しています。審査員の人数によって各審査員の評価の影響力が変わってきますので、審査員数の妥当性についても検討してもいいかもしれません。</p>
長沼委員	<p>審査員が審査に臨むにあたってのマナーは必要だと思います。審査の中で、申請事業について気になることは重点的に聞くことはありますが、言い論ずこととは別です。</p> <p>面接審査の前に、審査員で申し合わせをするのがよいのではないのでしょうか。</p>
櫻井委員	<p>今年初めて審査をしましたが、審査員それぞれが異なる意見を持っていました。このような事例は今後も起こりうることを念頭に入れておきたいです。</p>
部長	<p>職員の採用の際も、審査員は事前に研修を受けてから面接に臨んでいます。助成事業についても、審査の考え方や審査員としての姿勢についてまとめられるかと思います。</p>
副会長	<p>審査後に検証できるよう、審査には影響しませんが、公開しないけれども録音するなどして、可視化できるようにする仕組みにしてはいかがでしょうか。</p>
寺田委員	<p>申請団体としては、採択されたいという思いがあると思います。</p>
茂野委員	<p>申請団体は採択だけを目指しているわけではないと思います。採択に至らなくても、それに向けて自分たちを整えていく過程が大事で、その中で受ける指導などは効果的だと思っています。その過程で団体が育ち活動が発展していくので、その意味でも発言については大切にしていきたいと考えています。</p>
会長	<p>この事例について、私たちは反省の余地があると思っています。反省をしながら次につなげていきたいと思っています。</p>
課長	<p>公開プレゼンテーション審査では、実施団体に録音する旨を伝えます。録音内容は公開しませんが、意見の相違があった際に確認するために録音をすることとします。</p>
委員	<p>《審査における録音について委員全員で了承》</p>
長沼委員	<p>助成事業の見直しについて、資料からは部分的な見直しのように見受けられますが、どの程度の見直しを想定しているのですか？</p>

部長	<p>当初、地域力応援基金助成事業は10年間の事業であり、10年経過時に検証することとなっていましたので、検証にあたっては廃止から拡充まで考えられます。</p> <p>見直しにあたっては、先のような個別の事例から再構築まで幅広くなりますが、現在の体系がいいのかも含め、抜本的な見直しを進めたいと考えています。</p> <p>また、すぐに取りかかれることは、平成30年度から取り入れたいと思っています。</p>
事務局	<p>スタートアップ助成は、募集を行った当該年度に事業を実施するため、今年度中に議論が進めば、モデル的に平成30年度から実施することも可能と考えています。</p> <p>ステップアップ助成は来年度事業を現在審査中ですので、比較的じっくり検証できると考えています。</p> <p>また、当初10年間で3億円の基金を使い切る計画でしたが、来年度末時点で1億円強の残高となる見込みです。基金の活用に関する提言の有無も検討の余地があります。</p> <p>本テーマの調査・研究結果を本会議の活動報告としてまとめ、区長に提言することとなります。</p>
副会長	<p>他の自治体では、毎年度予算計上して実施し、翌年度以降は不明な場合もあります。大田区では基金での積立を行っているの、活動団体にとっては利用しやすい制度ではないでしょうか。この規模で活動を応援している自治体はなかなかないと思います。</p>
事務局	<p>次回の推進会議で、この続きを議論し、できればスタートアップ助成の検証に進んでいきたいと考えています。</p>
会長	<p>予定していた議題は以上です。事務局から報告等があればお願いします。</p>
支援員	<p>前期推進会議での議論を踏まえ「おおた地域力発見ガイド2017」を発行しました。仮称「地域活動ハンドブック」としていましたが、4か月ごとに区内で行われているイベントなどを掲載している「おおた地域力発見倶楽部」の情報も集約し、1年分を見渡せる冊子という趣旨もありますので、このように名づけました。</p> <p>巻末に、謝辞として本推進会議のことにも触れています。</p> <p>昨年度の調査・研究でのご提案を踏まえ、親しみやすい表紙にし、導入部分ではクイズを入れるなど、読みやすい工夫をしています。また、事例紹介を入れることで、地域力がめざすものを示すようにしました。</p> <p>第一部では区内で行われている主な地域活動、第二部では、地域活動を応援する事業を掲載しております。各事業の情報は区報等で手に入りますが断片的ですので、本冊子を活用していただくことで1年間を俯瞰する手がかりにもなります。</p> <p>学びの機会の中で地域活動に関心を持ち、これから始める方にとっても、地域活動のベテランの方にとっても、役に立つ冊子となっています。</p> <p>今年度は9月の発行でしたが、来年度以降は、早い段階で発行したいと考えています。ご覧になった感想や改善点を言っていただければと思います。</p>
事務局	<p>本冊子は、こらぼ大森、mics おおた、区民協働の窓口にも若干部用意しています。2,300部作成しましたが、残りわずかとなっております。</p> <p>来年度はもっと多くお配りできる予算を検討しています。</p>
支援員	<p>9月の地域力推進会議及び各地区の地域力推進地区委員会でお配りしています。</p>
寺田委員	<p>配布するだけでは他の資料に埋もれてしまいます。マンパワーが必要ですが、来年度以降は配布時に職員の方が説明すれば、さらに効果が高まると思います。</p>
支援員	<p>本冊子は区民協働事業のテキストとしても活用でき、今年度の区民活動コーディネータ</p>

	<p>一養成講座でも配布しました。今年度の受講生は 34 名で、80 代から 10 代まで幅広いのが特徴です。3 人の 10 代受講生は、10 代のつなぎ役になりたいという思いを持っています。</p>
茂野委員	<p>冊子に記載されている「NPO・ボランティア団体」という表現について、以前は「NPO・区民活動団体」という書き方だったと思います。</p>
支援員	<p>区民協働事業の中でも統一されていないのですが、「区民活動」という言葉を町会等も含めて広く使っている場合もありますので、本冊子では「NPO・ボランティア団体」という表現をしています。</p>
会長	<p>それでは、次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p> <p>《平成 29 年度 第 4 回は、11 月 9 日（木）に開催》</p> <p>《閉会》</p>